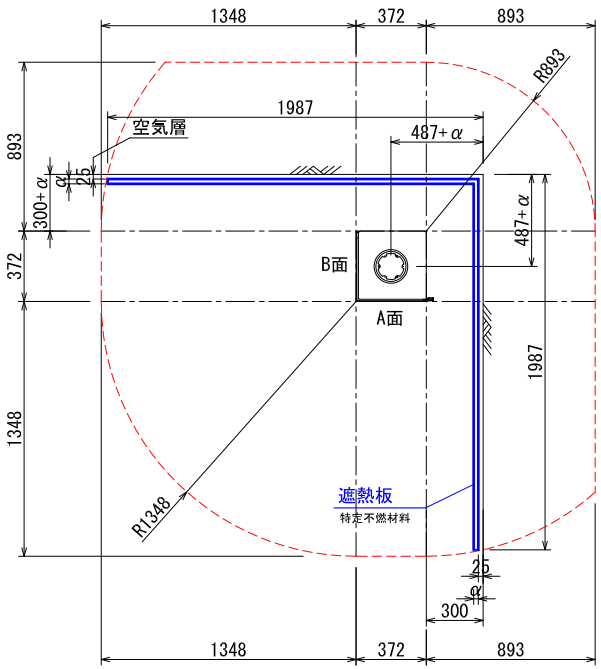
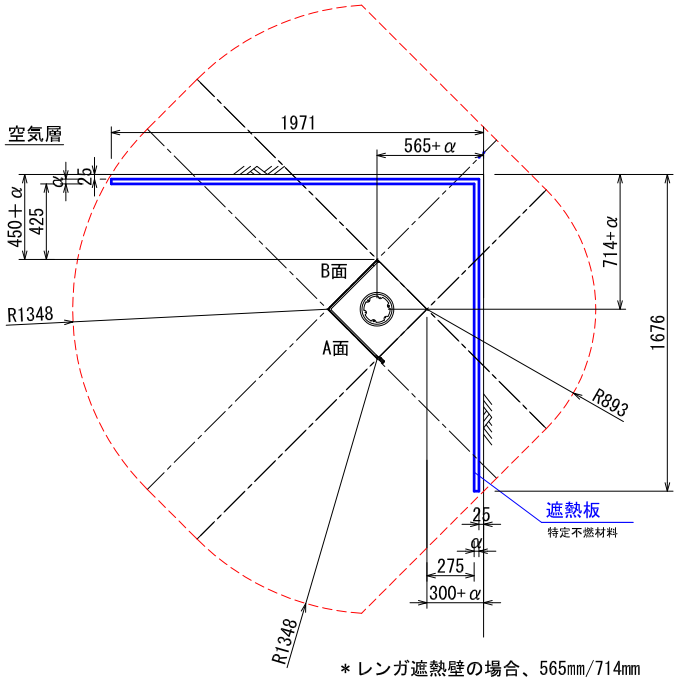
*ストーブ等可燃物燃焼部分
ストーブの輻射熱・対流熱により燃焼する可能性のある範囲を表す。

# 平 面 図

左右への回転機能(45°)を使用しない設置




＊レンガ遮熱壁の場合、本体煙突芯より487mm




＊レンガ遮熱壁の場合、565mm/714mm

ストーブ等可燃物燃焼部分の壁及び天井の室内に面する部分に対する火熱（輻射熱・対流熱）の影響が有効に遮熱遮断されている場合、室全体における壁・天井の内装仕上げについては、難燃材料又は木材等で仕上げる事が出来ます。

*:αはレンガ以外の不燃材遮熱壁の厚みを差します

RS261:Q-BE　内装制限告示内容に基づくストーブ遮熱寸法と離隔距離一覧

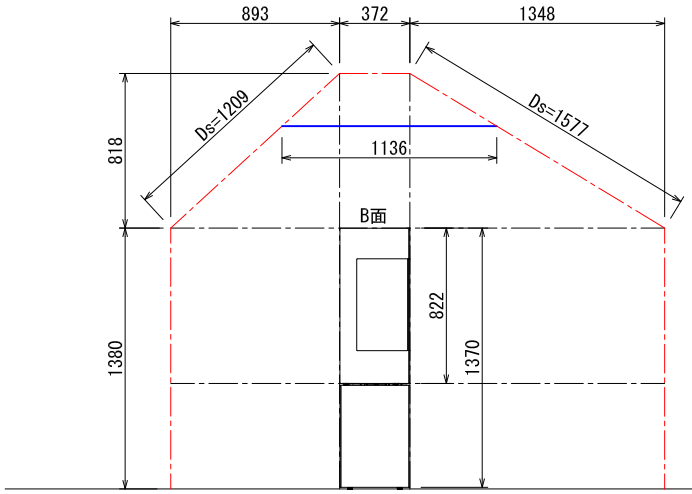
| Ａｖ | | Ａｈ | | | | | Ｈｓ |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 側面 | 正面 | | 側面① | 側面② | 正面 | 背面 | |
| 315,240mm² | 315,240mm² | 138,384mm² | 1,348mm | 893mm | 1,348mm | 893mm | 818mm |

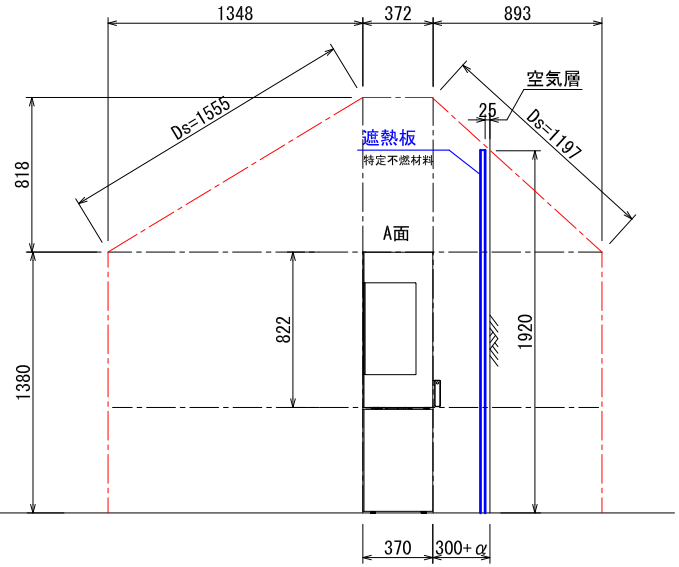
Av=ｽﾄｰﾌﾞ鉛直投影面積　Ah=ｽﾄｰﾌﾞ水平投影面積　Ls=ｽﾄｰﾌﾞ等可燃物燃焼水平距離　Hs=ｽﾄｰﾌﾞ等可燃物燃焼垂直距離
Ds=ｽﾄｰﾌﾞ等可燃物燃焼基準距離

| | |
|---|---|
| 図　面　名 | Q-BE　回転機能不使用<br>内装制限告示内容に<br>基づく設置図面 |
| 縮　　尺 | １／４０ |
| ダッチウエストジャパン株式会社 | |

*ストーブ等可燃物燃焼部分
ストーブの輻射熱・対流熱により燃焼する可能性のある範囲を表す。

# 正　側　面　図




ストーブ等可燃物燃焼部分の壁及び天井の室内に面する部分に対する火熱（輻射熱・対流熱）の影響が有効に遮熱遮断されている場合、室全体における壁・天井の内装仕上げについては、難燃材料又は木材等で仕上げる事が出来ます。

*:αはレンガ以外の不燃材遮熱壁の厚みを差します

RS261:Q-BE　内装制限告示内容に基づくストーブ遮熱寸法と離隔距離一覧

| Ａｖ | | Ａｈ | | | | | Ｈｓ |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 側面 | 正面 | | 側面① | 側面② | 正面 | 背面 | |
| 315,240mm² | 315,240mm² | 138,384mm² | 1,348mm | 893mm | 1,348mm | 893mm | 818mm |

Av=ｽﾄｰﾌﾞ鉛直投影面積　Ah=ｽﾄｰﾌﾞ水平投影面積　Ls=ｽﾄｰﾌﾞ等可燃物燃焼水平距離　Hs=ｽﾄｰﾌﾞ等可燃物燃焼垂直距離
Ds=ｽﾄｰﾌﾞ等可燃物燃焼基準距離

| | |
|---|---|
| 図　面　名 | Q-BE<br>内装制限告示内容に<br>基づく設置図面 |
| 縮　　尺 | １／４０ |

ダッチウエストジャパン株式会社

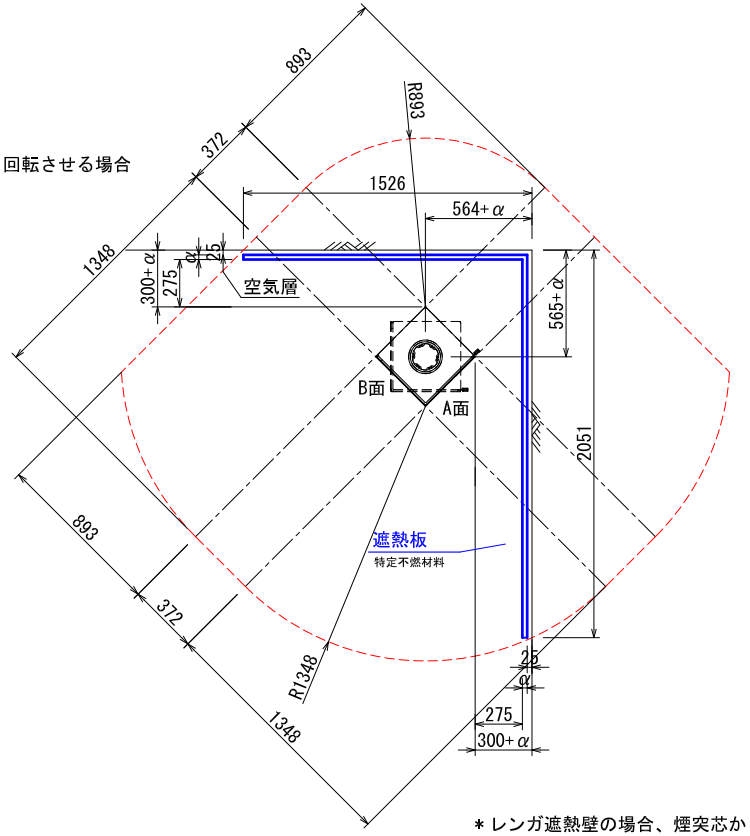
*ストーブ等可燃物燃焼部分
ストーブの輻射熱・対流熱により燃焼する可能性のある範囲を表す。

Q-BEは、ﾍﾞｰｽﾎﾞｯｸｽを基準に燃焼ﾎﾞｯｸｽを左に45° 右に45°回転させる事が出来ます。
回転させた場合、離隔距離と共に遮熱壁の幅・高さが変化しますので、壁に対するAB面の据え付け方向を基準に設計することが必要です。

# 平 面 図

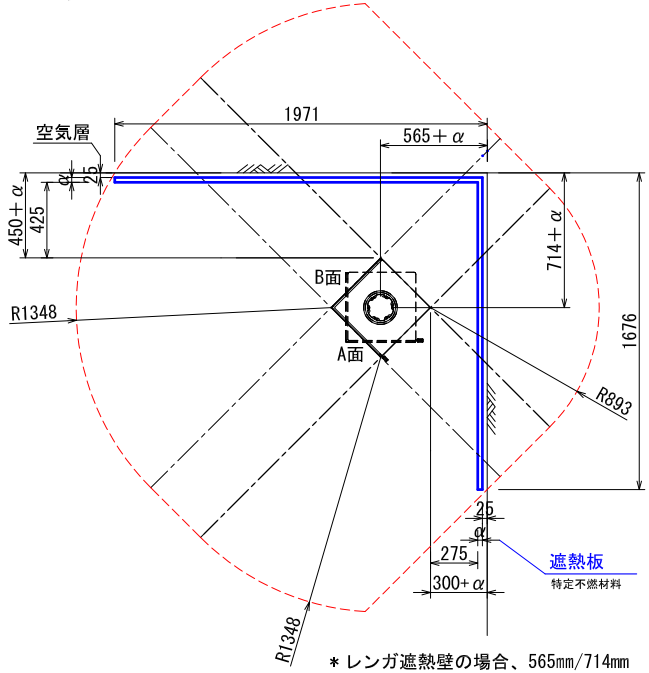
左右への回転機能(45° )を使用する設置

右に45° 回転させる場合




＊レンガ遮熱壁の場合、煙突芯から564mm／565mm

左に45° 回転させる場合




＊レンガ遮熱壁の場合、565mm/714mm

＊:αはレンガ以外の不燃材遮熱壁の厚みを差します

ストーブ等可燃物燃焼部分の壁及び天井の室内に面する部分に対する火熱（輻射熱・対流熱）の影響が有効に遮熱遮断されている場合、室全体における壁・天井の内装仕上げについては、難燃材料又は木材等で仕上げる事が出来ます。

| RS261:Q-BE　内装制限告示内容に基づくストーブ遮熱寸法と離隔距離一覧 | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| Ａｖ | | Ａｈ | | | | | Ｈｓ |
| 側面 | 正面 | | 側面① | 側面② | 正面 | 背面 | |
| 315,240mm² | 315,240mm² | 138,384mm² | 1,348mm | 893mm | 1,348mm | 893mm | 818mm |

Av=ｽﾄｰﾌﾞ鉛直投影面積　Ah=ｽﾄｰﾌﾞ水平投影面積　Ls=ｽﾄｰﾌﾞ等可燃物燃焼水平距離　Hs=ｽﾄｰﾌﾞ等可燃物燃焼垂直距離
Ds=ｽﾄｰﾌﾞ等可燃物燃焼基準距離

| | |
|---|---|
| 図　面　名 | Q-BE　回転機能利用<br>内装制限告示内容に<br>基づく設置図面 |
| 縮　　尺 | １/４０ |
| ダッチウエストジャパン株式会社 | |

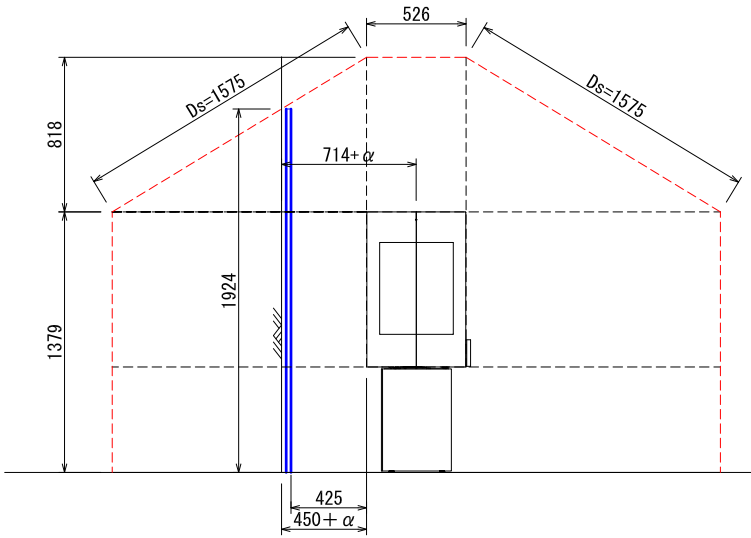
*ストーブ等可燃物燃焼部分
ストーブの輻射熱・対流熱により燃焼する可能性のある範囲を表す。

Q-BEは、ﾍﾞｰｽﾎﾞｯｸｽを基準に燃焼ﾎﾞｯｸｽを左に45° 右に45°回転させる事が出来ます。
回転させた場合、離隔距離と共に遮熱壁の幅・高さが変化しますので、壁に対するAB面の据え付け方向を基準に設計することが必要です。

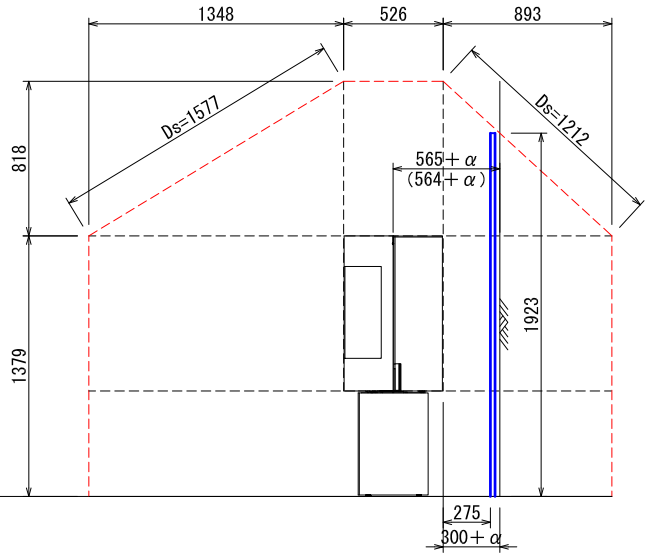
# 側 面 図

左右への回転機能(45° ) を使用する設置

平面図参照
左に45° 回転させる場合




平面図参照
左(右) に45° 回転させる場合




ストーブ等可燃物燃焼部分の壁及び天井の室内に面する部分に対する火熱（輻射熱・対流熱）の影響が有効に遮熱遮断されている場合、室全体における壁・天井の内装仕上げについては、難燃材料又は木材等で仕上げる事が出来ます。

*:αはレンガ以外の不燃材遮熱壁の厚みを差します

RS261:Q-BE　内装制限告示内容に基づくストーブ遮熱寸法と離隔距離一覧

| Ａｖ | | Ａｈ | | | | | Ｈｓ |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 側面 | 正面 | | 側面① | 側面② | 正面 | 背面 | |
| 315,240mm² | 315,240mm² | 138,384mm² | 1,348mm | 893mm | 1,348mm | 893mm | 818mm |

Av=ｽﾄｰﾌﾞ鉛直投影面積　Ah=ｽﾄｰﾌﾞ水平投影面積　Ls=ｽﾄｰﾌﾞ等可燃物燃焼水平距離　Hs=ｽﾄｰﾌﾞ等可燃物燃焼垂直距離
Ds=ｽﾄｰﾌﾞ等可燃物燃焼基準距離

| | |
|---|---|
| 図　面　名 | Q-BE　回転機能利用<br>内装制限告示内容に<br>基づく設置図面 |
| 縮　　尺 | １/４０ |

ダッチウエストジャパン株式会社

# 内装制限告示内容に基づくストーブ遮熱壁寸法と離隔距離計算表

機種　RS-261 ： Q-BE

最大熱出力/時間　6,900 Kcal/h
8.0 Kw

最大熱出力/　秒　1.92 Kcal/s

**Av** ： **ストーブ鉛直投影面積**

**Av**　（側面）　＝ 370 × 852 ＝ 315,240 $mm^2$

**Av**　（正面／背面）＝ 370 × 852 ＝ 315,240 $mm^2$

**Ah** ： **ストーブ水平投影面積**

**Ah** ＝（ｱｯｼｭﾘｯﾌﾟ、ﾘｱﾋｰﾄｼｰﾙﾄﾞを含めた最大奥行き）×（最大横幅）

**Ah** ＝ 372 × 372 ＝ 138,384 $mm^2$

**Ls** ： **ストーブ等可燃物燃焼水平距離**

**Ls**　（側面）　＝ 1.59 × √Av(側面)　≒ 893 mm

**Ls**　（正面）　＝ 2.4 × √Av(正面/背面)　≒ 1348 mm

**Ls**　（背面）　＝ 1.59 × √Av(正面/背面)　≒ 893 mm

**Hs** ： **ストーブ等可燃物燃焼垂直距離**

$$\mathbf{Hs} = 0.00106 \left( 1 + \frac{1000000}{Ah + 80000} \right) Ah \fallingdotseq 818 \text{ mm}$$

**Ds** ： **ストーブ等可燃物燃焼基準距離**

**Ds** ＝ 図面を参照ください。

発熱量、15,480kcal/s 以下 のストーブ